

ミャンマーの政策概要

■ 政策枠組

総合計画	● 廃棄物管理戦略および行動計画 (2018-2030) (詳細①) ※国家プラスチック行動計画は準備中
------	---

基本法制度 拡大生産者責任 (EPR)	<ul style="list-style-type: none">国家環境政策 (2019)環境保全法 (2012)環境保全規制 (2014)
------------------------	--

■ 資源循環

リデュース	都市レベルでの実施例：マンダレー市やヤンゴン市で、ポリエチレン製のビニール袋の製造、販売、配布等を禁止。実施は脆弱。
-------	--

リユース リサイクル	都市レベルでのプラスチック・リサイクル 成功事例：マンダレー市やヤンゴン市
---------------	--

マイクロ ビーズ	(特になし)
-------------	--------

代替素材	アレカ (ヤシの一種) の葉を利用した自然素材のプラスチック代替品が作られている。
------	---

公共調達	<ul style="list-style-type: none">グリーン公共調達制度は存在しない。EUの「SWITCH-ASIA」SMART Myanmar プロジェクトは持続可能な公共調達を推奨
------	---

■ 適正処理

廃棄物処理 体制	ミャンマーの廃棄物処理体制は脆弱で、予算不足が深刻。ガバナンス面での能力強化も必要。
-------------	--

流出防止	オランダ政府の主導で国際NGO「The Ocean Cleanup」の河川におけるプラスチックごみ回収船、「インターセプター」のヤンゴン川への設置が準備されており、海への流出防止が図られる予定
------	--

ごみ回収	<ul style="list-style-type: none">ミエイク諸島周辺におけるゴーストネット回収プロジェクトで、1800キロ以上の放棄された漁網の回収地方自治体、NGO、ホテル連盟などの協力により、ビーチでのプラごみ回収を実施
------	---

■ 横断的取組

技術開発	「プラスチックごみをチャンスに変えるプロジェクト (OPTOCE : ノルウェー)」に参加し、リサイクル不可能なプラスチックのEPP-利用を模索
------	--

普及啓発 官民協力	2019年から2020年の1年間で、政府職員や関連局の職員により、380回の市民に対する意識向上活動の実施
--------------	---

科学的知見 の蓄積	2019年、世銀の支援によってミャンマー環境NGO「Thant Myanmar」は陸上と海洋ソースのプラスチックごみの調査を実施
--------------	--

国際協力	世銀、日本政府 (環境省) 及びアジア開発銀行と協力してプラスチックごみ国家政策を準備中
------	--

①ミャンマー：廃棄物管理戦略および行動計画（2018-2030年）

廃棄物管理戦略および行動計画（2018-2030年）は、廃棄物・排気ガスの発生ゼロ、包括的で目つ循環経済の考えに根差した、クリーンで健全な環境を目指すために策定された。行動計画の目標は、持続可能な廃棄物処理の能力強化とそれを可能にする政策枠組みや戦略を推進し、それにより伝統的な廃棄物処理のあり方から、3Rに根差した持続可能な体制に切り替えることである。

策定年・期間

2020年1月承認

目標等

廃棄物管理戦略および行動計画には2030年までに廃棄物ゼロの社会の達成などを目標として6つの基軸に沿って、13のターゲット、59の活動が設定されている。6つの基軸（Goals）は以下の通り：

- Goal 1： 適切な廃棄物回収サービスを全ての市民に提供し、不適切な廃棄と野外焼却をなくす
- Goal 2： 産業廃棄物及び有害廃棄物の持続可能で適切な処理の拡大
- Goal 3： 3Rの導入によって、持続可能な形で廃棄物の発生を防ぎ、資源循環性のある社会の構築
- Goal 4： 持続可能な金融メカニズムの構築
- Goal 5： 意識向上、啓蒙活動、能力強化
- Goal 6： コンプライアンス、モニタリング、法律等の順守及び優良事例の認知

対策

廃棄物の中で、プラスチックごみも優先課題として位置づけられている。

実績

（具体的な成果はこれから）